

NPO法人「ちゅうぶ」のみなさんと 新大阪駅新幹線ホームの段差・隙間などについて意見交換

2月10日、J R 東海労新幹線関西地本は、N P O 法人「ちゅうぶ」を訪問して、新大阪駅新幹線ホームにおける車両乗降口との段差・隙間などについて意見交換を行いました。地本は、車いすで鉄道を利用されている「ちゅうぶ」のみなさんから、これまで2回にわたり貴重なご意見を頂き、意見交換を行っています。

今回は、「ちゅうぶ」のみなさんから、新大阪駅新幹線ホームにおける車両乗降口との段差・隙間対策（縮小）の検証を実施されたご意見を聞かせて頂きました。

2019年10月、国土交通省のバリアフリー整備ガイドラインが改訂され、プラットホームと車両乗降口の段差・隙間の縮小について、プラットホームの条件や段差・隙間の目安値が取りまとめられました。J R 東海は、2021年6月、東京駅の一部のホームにおける段差・隙間対策を完了しています。新大阪駅の一部のホームにおいても、2023年11月からの工事が完了しました。

ホームと車両乗降口の段差・隙間の目安値は、段差3 cm、隙間7 cmです。段差2 cm、隙間5 cmが望ましいとなっています。

「ちゅうぶ」のみなさんのご意見

- * J R 東海は、段差・隙間の基準をクリアしているとしているが、実際は隙間7.5 cmで基準（7 cm）をクリアしていない。
- * 大阪メトロは、最大で段差2 cm、隙間3 cmでほぼフラットな状態になっている。なぜJ R 東海は出来ないのか疑問だ。
- * 新大阪駅北口からの万博直通のシャトルバスは、スロープがないため車いすなどの障がい者は乗車できない。
- * 新大阪駅新幹線コンコースのエレベーターの案内表示が、中央改札口からだとわかりにくい。
- * 新大阪駅乗換改札口から27番線のエレベーターに行く通路の混雑が常態化している。車いすの旅客は乗り遅れる可能性がある。
- * 新大阪駅から万博への直通列車の案内表示や周知は明確にしてほしい。

「ちゅうぶ」のみなさんの検証によって、J R 東海が基準をクリアしているとしていた新大阪駅新幹線ホームの段差は7.5 cmとなっていて、基準の7 cmをクリアしていないことがわかりました。また、新大阪駅において車いすをご利用されているみなさんが、不安全・不便・不快に感じていることのご意見も頂きました。

今回の「ちゅうぶ」のみなさんからの貴重なご意見を、鉄道をご利用されるすべてのみなさんが、安全・便利・快適にご利用できる鉄道づくりのために生かしていきます。